

# 日本史 B

熱い「夏」を前に、モチベーションを高めていこう！

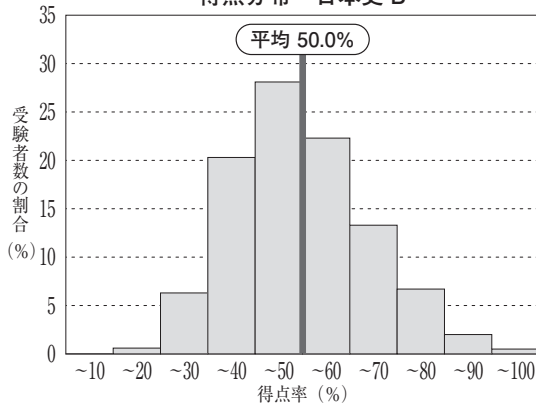
## I. 全体講評

全国統一高校生テストの受験学年における平均点は50.0点であった。「夏」を前にした段階でのこの数字は、評価していいだろう。4月に実施されたセンター試験本番レベル模試の平均点43.1点を約7点も上回った。

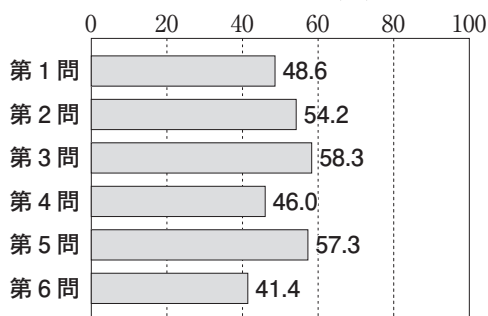
大問6題のうち、第2問・第3問・第5問の得点率はそれぞれ、54.2%、58.3%、57.3%と5割台を確保し、これまでの模試では点数が伸び悩んだ近現代史を主題とした第6問も、41.4%と何とか踏ん張れた。

熱い「夏」を前に、是非とも志望校への想いを馳せることで、モチベーションを高めてほしい。決戦の「夏」は目前である。

得点分布 日本史 B



大問別得点率 (%)



## II. 大問別分析

### 第1問 海を渡った人びと

世界の中の日本といった視点をもちながら、日本史の学習にあたっていこう！

「海を渡った人々」をテーマとして外交史を中心にとりあげた。近年の傾向として、世界の中の日本といった視点からの出題が増加している。広い視野から日本史を学ぶ習慣をつけていこう。

第1問の得点率は48.6%と5割弱の結果であった。問2の原始時代に関する時代整序問題の正答率は70.1%としっかり理解している状況がうかがえたが、その他の設問は軒並み40%~50%台前半にとどまった。問1の正答率が40.0%に終わったことは、10世紀における東アジアの状況をとらえきれていないことを意味する。解答解説を熟読することで、細部にわたって点検してほしい。

### 第2問 古代の政治・文化

文化史は政治史・外交史などの主要テーマと関連付けながら学習を進めよう！

古代の政治・文化を中心に出題した。どうしても文化史の学習は暗記作業に終始しがちである。政治史・外交史と関連性を見出すことで、理解度を深めていくように心がけていこう。

第2問の得点率は54.2%と5割の中盤に迫る結果であった。空欄補充形式の問1は82.2%と非常に高い正答率であったが、その一方で問3の「記紀」に関する問題は30.2%と大きく崩れた。誤答②・③を選択肢した受験者も、それぞれ35.5%、23.9%にのぼり、設問文の内容に惑わされたようだ。教科書にも記載されている基礎的な内容だけに、確実に得点できるように反復学習を遂行してほしい。

### 第3問 中世の鶴岡八幡宮

歴史を断片的にとらえず、時代間の連続性を意識することで、変化の過程をとらえていこう！

鎌倉の「鶴岡八幡宮」をテーマとして基本的な内

容を問うた。刻一刻と変化する歴史は、時代間の連続性を意識することで、その変化の過程を深く考察していこう。

第3問の得点率58.3%は、大問6題中、最高の数字であった。問1・問3・問4・問6は6割~7割の正答率を確保できていた。基礎的な政治・文化に関連する問題であったが、自信をもって答えられたようだ。視覚教材を提示してその内容の正誤を問うた問5は43.2%と伸び悩んだ。視覚教材に付記されている語句だけでなく、「注」にある内容も吟味して、総合的に正誤を判断できる力を養っていくことが大切だ。

#### 第4問 江戸時代の義民

歴史的な遺産を実際に目にすることで、日本史に関する興味を深めていこう！

義民を取り上げ、江戸時代を中心とする総合問題とした。義民に関する顕彰碑などは各地にみられるだけに、実際に目にすることで、歴史を身近に感じてみよう。学習意欲も高まっていくはずだ。

第4問の得点率は46.0%と、5割に届かず決定打に欠いた印象だ。江戸初期に関連する内容を問うた問5が32.2%、19世紀前半の政治を問うた問6が37.9%と3割台の正答率にとどまったことが、その要因であった。ともに受験者の解答が分散する傾向が顕著であった。決戦の夏を前に、網羅性を重視した学習の重要性を今一度、認識しよう。

#### 第5問 幕末・維新期の様相

幕末・維新期は、「年表」に記された出来事を丁寧に確認する作業を繰り返し行なっていこう！

1866年~1869年の短い時期を対象とした問題文から、幕末・明治期の政治史・外交史を中心に出题した。情報量の多い幕末期は年表を見て、その時系列を正しく認識することから始めよう。

第5問の得点率は57.3%と、第3問に次ぐ好結果であった。問2の史料「王政復古の号令」に関する読解問題の正答率83.8%は、全設問36題中、最高の数字であった。このような読解問題はセンター本試・日本史Bでは頻出なだけに、これから自信をもってあたるよう、教科書に掲載されている史料は逐一、点検していこう。

#### 第6問 黎明会と東大新人会

教科書の内容を重視し、基本・標準レベルの問題を確実に得点できるようになろう！

黎明会と東大新人会をテーマに、戦後史まで広い範囲を出題した。問題文が特殊としても、センター本試・日本史Bで問われる内容はすべて基礎・標準レベルである。これまで通り教科書を重視した学習を進めていこう。

第6問の得点率は41.4%と辛うじて4割台は確保できた。しかし、5割を下回することは習熟度がまだ甘いことを意味する。これを反省点にして学習計画を立てていこう。最高の正答率が問5の58.4%にとどまり、問6は17.6%と最低の数字に沈んだ。個々の歴史的現象が起こった時期や経緯、関わった人物やその結果など、総合的に理解できれば、おのずと正答率は上がっていく。真摯に努力を継続していこう。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆苦手なテーマを克服する

得意な分野で得点を重ねることは大きな武器になるが、苦手な分野が出題されて失点が多くなると、その威力も半減してしまうことは言うまでもない。

古代・中世の荘園を中心とした土地制度史、近世・近現代史の社会経済史は、多くの受験生が苦手とする分野である。苦手をしている分野はどうしても学習が後回しになりがちだ。高得点を獲得するカギは、苦手なテーマを克服することにある。そのことを自覚して真正面から学習にあたること。

#### ◆この「夏」で網羅する

現役生は部活や学校の定期テスト対策と、忙しい一学期を送ったことだろう。夏休みこそ、主体的に「時間」を活用してほしい。夏の綿密な学習計画を立てるとともに、この夏の期間に原始時代から1990年代までの現代史まで、文化史を含め学習にあたることを目標に掲げてほしい。全分野を網羅することで、揺るぎない自信をつけていこう。

— 「苦」は楽しみの種 と知るべし。 —

徳川光闊